

「2030年の水島、こうなったらいいな」

持続可能性アセスメント 方法書



よみがえれ水島のまち 公害のまちから緑と水、にぎわいのまちへ
水島再生プラン(1995年)

「2030年の水島、こうなったらいいな」は、公害患者さんから託された「水島再生プラン」(1995年)をもとに、現状を環境アセスメントの手法で点検し、新たに作成したものです。これは、国連が定めた「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成年にあわせて目標を立てています。この方法書は、私たちの活動が目標達成に向けて前進できているのかどうかを点検・評価していくための計画です。



<構成>

1. 市民からの「持続可能性アセスメント」
2. 「2030年の水島、こうなったらいいな」のSDGs
3. 評価活動の進め方

2020年10月25日

公益財団法人水島地域環境再生財団(みずしま財団)、NPO地域づくり工房

※この活動は2020年度独立行政法人環境再生保全機構「地球環境基金」の助成を受けています



1. 市民からの「持続可能性アセスメント」

(1) 持続可能性アセスメントとは

あらゆる開発行為の政策・計画・実施・事後において、それらが環境・社会・経済に与える影響を事前に見積り、社会の持続可能性を高める方向で作用しているかどうかを点検・評価する取り組みです。日本では制度化されておらず、定義や実施方法についても確立されていません。

2015年、国連が2030年を目標に、「持続可能な開発目標（SDGs）」を示したことで、民間部門を含むあらゆる国や地域での開発計画はSDGsに対する取組姿勢を打ち出すことが求められるようになりました。そうした中で持続可能性アセスメントに対する関心が高まっています。

(2) 市民からの持続可能性アセスメントの意義

私たちが実施する持続可能性アセスメントは、「2030年の水島、こうなったらいいな」の実践に際して、SDGsの達成に寄与する観点から、自己点検・評価する取り組みです。

持続可能性アセスメントの定まった方法がない中で、私たちのやり方が適切なものかどうかわかりませんが、ひとつの提案となることを願っています。

市民からの持続可能性アセスメントには以下3つの意義があると考えます。

①自己点検・評価の仕組みとして

市民活動による中・長期の地域づくり計画について自己点検・評価する際に、国際的な目標達成への寄与を具体的に認識することのできる仕組みとなります。また、持続可能性アセスメントにおいて、活動の獲得目標にそった評価指標を設定し、データを蓄積することは、活動を計画的に進めていく上で有意義なものとなります。また、各地で活動する市民活動が交流するときのテーマ設定などにも役立つことでしょう。

②地域社会など第三者から評価していただく目安として

市民からの持続可能性アセスメントでは、活動の節目における点検・評価に際して、地域社会などの関係者に意見を求め、評価の参考にします。獲得目標や評価指標、それに基づくデータの蓄積は、地域社会など第三者が市民活動を評価する上での目安となり、市民活動への理解と協力を地域社会などから引き出していく上で有益です。SDGsの目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」を実践するものとなります。

③新しい尺度の提案

「2030年の水島、こうなったらいいな」の持続可能性アセスメントが設定する評価指標は、公害患者さんたちに託された思いを土台としています。このように、市民からの持続可能性アセスメントが提起する評価指標は、市民のそれぞれの志に基づくものです。こうした取り組みが各地で広がることで、「持続可能な開発の進捗状況を測るGDP以外の尺度を開発する既存の取組を更に前進させ」（SDGs 17-19）ることに寄与することが期待されます。

(4) 方法書の位置付け

方法書とは、アセスメントの実施方法についてまとめた書類のことをいいます。

この方法書は、私たちが行う地域づくり活動についての持続可能性アセスメントの実施方法について公表し、広範な市民・専門家の協力を請うためのものです。

皆さまからのご意見やご助言をお待ちしています。

2. 「2030年の水島、こうなったらいいな」のSDGs

私たちは、財団発足時から蓄積してきたデータや活動経験、公害患者さんたちや地域の方々への聞き取りを通じて、水島再生プラン（1995年）が掲げた7つの提案について、今後も追及し続ける課題であることを再認識しました。

その上で、みずしま財団や地域社会での取り組みなど、現在の状況を踏まえて、7つの提案の下に、「2030年の水島、こうなったらいいな」という目標を新たに設定しました。7つの提案の達成度合いをはかる指標を示し、SDGsとの関係を紐づけしました。

提案1：グリーンベルト（緑の木）でコンビナートをつつむ

■2030年の水島、こうなったらいいな

- ◎商店街内の未活用空間や基幹公園が樹木に覆われた緑地になり、緑多い水島のまちづくりを進める。
- ◎産業部門での大幅なCO₂排出量削減を実現するために、既存技術を生かした設備更新や、再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入を進める。

■評価指標：岡山県内のCO₂排出量

- ・現状（2015年）：4,939万t（岡山県温室効果ガス排出量算定・報告・公表制）
- ・2030年：1,975万t



提案2：まちに賑わいの拠点を

■2030年の水島、こうなったらいいな

- ◎水島で学ぶ若者が、歴史や過去の経験から学び、地域の魅力を発見し、新しい価値を創造できるようにする。
- ◎学びを支える人・資源・情報が集まるようにする。未来をつくりだす学びの拠点（資料館、交流館）の整備を進める。

■評価指標：水島地域で提供できる学びのプログラムの数

- ・現状（2019年）：12件（環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議）
- ・2030年：30件



提案3：健康、福祉のまちづくり

■2030年の水島、こうなったらいいな

- ◎地域住民が主体的に実施する肺年齢測定等を通じて、COPDや呼吸器ハビリテーションのことであり、早期発見・治療の取り組みが進み、健康的に暮らせる街になるようにする。
- ◎他地域からの移住者、一人暮らしの高齢者、子育て世代などが孤立しないよう、支え合うしくみづくりを進める。

■評価指標：COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度

- ・現状（2016年）：38.7%（みずしま財団調べ）
- ・2030年：50.0%



提案4：芸術、科学をテーマに

■2030年の水島、こうなったらいいな

- ◎みずしま滞在型学習コンソーシアムで長期滞在プログラムを整備し、企業では国内外の若者が科学技術や環境対策技術を学ぶことができる。
- ◎若手のアーティストが大学と連携し、創造的な活動のできる地域と認識されることで、移住・定住する人が増えるようにする。
- ◎地域から新たな技術や文化の発信を進める。

■評価指標：大学生・留学生の研修受入数



- ・現状（2018年）：275人（みずしま財団実績）
- ・2030年：600人

提案5：原風景、原体験を大切に

■2030年の水島、こうなったらいいな

- ◎農漁業の作り手と買い手をつなぐ仕組みができるようにする。適正な価格での買取がされるなど、地域の小規模な農漁業が、経済的に成り立つようになる。
- ◎水島学講座で、干拓の歴史などを学び、海拔が低いといった地域の特性を知ることによって日ごろの備えを見直すなど、防災・減災への意識を高める。

■評価指標：水島学講座の開催数

- ・現状（2017年）：7回（前出の環境学習協議会実績）
- ・2030年：12回



提案6：水島臨海鉄道の延長

■2030年の水島、こうなったらいいな

- ◎水島臨海鉄道を地域の基幹交通として、地域内をつなぐコミュニティタクシーが使いやすい形で整備され、高齢者も移動に困らない地域になるようにする。
- ◎気候変動への対策として、環境負荷の少ない移動手段の実現に向けて、低公害車（電気自動車）バスが導入されるようにする。

■評価指標：コミュニティタクシー利用者数

- ・現状（2019年）：234人（みずしま財団調べ）
- ・2030年：360人



提案7：海辺、水辺を住民の手に

■2030年の水島、こうなったらいいな

- ◎水島周辺の海辺や水辺が学びのフィールドとして活用されるようになる。その取組を行政、企業、NPOが協力して支援する仕組みづくりを進める。
- ◎八間川の川幅を広げ、傾斜護岸にすることで、親水空間としての機能と、豪雨等災害時の遊水機能が確保されるようにする。
- ◎高梁川から流入する海ごみの減量化を進める。

■評価指標：海ごみについて学んでいる人の数

- ・現状（2019年）：450人（みずしま財団実績）
- ・2030年：720人



4. 評価活動の進め方

（1）基本方針

私たちが実施する持続可能評価アセスメントは、公害患者さんたちから託された「水島再生プラン」（1995年）の実現に向けて、国際的な目標であるSDGsに呼応しながら、私たちの活動を自己点検し、地域の方々のご理解とご協力を広げていくことを念頭に、以下の基本方針により実施します。

①わかりやすさ

水島におけるSDGsや持続可能な開発について考え、対話し、学ぶきっかけとなるように、わかりやすい内容となるようにします。

②市民らしさ

私たちが実施する持続可能性アセスメントは、生活感覚に根ざし、社会のあり方に対する問題意識を持った、市民活動らしさを重視します。

③広がりや成長

評価活動への幅広く市民の参加を呼びかけ、意見を吸収していきます。そして、寄せられる意見や事業の進展などを踏まえて、実施内容を充実させていきます。

(2) 実施主体

公益財団法人水島地域環境再生財団（みずしま財団）が実施主体となって、地域の関係者の方々にご協力を求めて、情報収集や調査活動、ワークショップを開催することで、節目ごとに点検・評価を行い、その成果を WEB 上に公開します。

(3) 進め方

①方法書の作成（2020 年度）

イ) 2015 年データの収集と課題整理

「2030 年の水島、こうなったらいいな」が設定した各指標について、2015 年（SDGs の開始年）を評価の起点に設定し、該当する統計情報などを収集します。それをもとに 2015 年時点での水島地域における SDGs 上の課題を整理し、みずしま財団として重点をおくべき活動を整理します。

ロ) 目標設定と評価シートの作成、公開

上記を踏まえて、今後の点検評価を実施するための評価シートを盛り込んで、方法書として作成し、「2030 年の水島、こうなったらいいな」とともに公開します。

②中間評価書（2021 年度、2026 年度）

2015 年データを起点に、2020 年と 2025 年を中間評価年として、その翌年度にデータを収集し、地域の状況の変化、活動内容などを点検し、地域関係者の声を聴きながら、中間評価を行います。その結果を中間評価書としてとりまとめ、公開します。

③総括評価書（2031 年度）

2031 年度に、2030 年データを収集し、地域の状況の変化、活動内容などを総括し、地域関係者の声を聴きながら、最終的な評価を行います。また、岡山県・国、国連における SDGs の取組みに対する総括を参照し、水島地域における取組みを位置付けます。それらの結果を総括評価書としてとりまとめ、公開します。

(4) 評価シート案

水島再生プラン (1995 年)	評価指標	評価年	数値	コメント
グリーンベルトでコンビナートをつつむ	岡山県内の CO ₂ 排出量	2015	5,167 万 t	2013 年度（岡山県地球温暖化防止行動計画の基準年度）比で 2.8%（148 万 t）の減少となった。産業部門が 62.2%と全国平均の 32.7%を大きく上回っている。
		2020	4,324 万 t (2019 年度速報値) 2022 年 3 月現在	産業部門で基準年（H25）比、20%減、民生部門で 32.1%の減少となっている。
		2021	4,324 万 t (2019 年度速報値)	岡山県域全体の排出量統計は現在、2019 年度(速報値)が最新である。 グリーンベルトでの吸収量はコンビナートと比較して 0.005%内外であるため、現状では有意な効果は見られていない。 2030 年の目標は 2013 年度比 6 割減（2,067 万 t）、「岡山県地球温暖化対策実

				行計画」(2023年3月改訂)では39.3%減(3,168万t)パブコメ提出(目標が低すぎるのではないか?という趣旨)	
		2025			
		2030		目標値:2,067万t(6割減)	
2	まちに賑わいの拠点を	水島地域で提供できる学びのプログラムの数	2015	10件	2013年に立ち上げた「環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会」の中で、プログラムを整理した。
			2020	20件	2018年3月に「みずしま滞在型環境学習コンソーシアム」を立ち上げ、より幅広い主体と連携することで、提供できる学びのプログラムを増やすことができた。
			2021	23件	公害資料館づくりに向けた取り組みに連動してプログラムが2件増え、教材として「水島の公害と未来」を作成した。「2030年の水島、こうなったらいいな」を活用した学びのプログラムを提供作成した。
			2025		
			2030		目標値:30件
3	健康、福祉のまちづくり	COPDの認知度	2015	36.7%	水島地区10カ所(ミニ健康展会場8、他2)で実施、肺年齢測定・認知度調査実施
			2020	42%	COPD講座参加者へのアンケート調査より
			2021	42%	2022年COPD講座参加者へのアンケート結果より。認知度があまり増えていない。全体からの抽出ではなく講座に興味を持った人へのアンケート結果である
			2025		
			2030		目標値:50%
4	芸術、科学をテーマに	大学生・留学生の研修受入数	2015	758人	佐賀市立成章中学校(175人)、全国青年ジャンボリー(150人)含む。初めて修学旅行の受入を行ったが、継続実施には至らなかった。
			2020	161人	2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、研修受入はキャンセルが相次ぎ、2015年比で大幅減となった。そういった中で、JICA中国の研修員(アフガニスタン出身)の受け入れを初めて実施し、今後につながる展望もあった。

		2021	176人	<p>みずしま滞在型環境学習コンソーシアムとして受入が48名（龍谷大学・北九州大・岡大・JICA）だった。</p> <p>みずしま財団として受け入れが127名（亀島山を目的とした高島中と金沢大、県民医連初期事務・倉敷医療生協3年目研修、海ごみを目的とした新見市環境衛生協議会）だった。</p> <p>なお修学旅行の申込は9件（1,141名）コロナの理由によりキャンセルとなった。問合せ4件（242名）あったが、業者選定・コロナのため申込にならなかった。</p>	
		2025			
		2030		目標値：600人	
5	原風景、原体験を大切に	水島学講座の開催数	2015	0回	水島学講座は、2016年から開催。協議会では、「水島いいところ探し」や「水島のまちを語り合う座談会」などを実施しており、地域を知ることの大切さを認識し、翌年以降の実施につながった。
			2020	1回	本講座は、2016年からスタートし、2020年までに延べ10回開催し、歴史や産業、国際的なつながりや防災など幅広い視点での学びとして定着しつつある。2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、水島学講座「歴史編」1回の開催にとどまった。本講座は、オンライン配信と組み合わせたハイブリッド形式で開催し、継続することができた。
			2021	5回	水島学講座は観光編として2回開催した。皆で歴史を聞き書きしてストーリーを作り上げる「みずしま地域カフェ」を2021年度からスタートし、3回実施した。
			2025		
			2030		目標値：12回
6	水島臨海鉄道の延長	コミュニティタクシーの利用者数	2015	0人	水島地域におけるコミュニティタクシーの取り組みは、2018年（H30）からスタートしている。
			2020	352人	2019年度（234人）からは増加している。ただ、年度途中に広江線が追加（それ以前は連島線のみ）となったため、単純比較は難しい。

		2021	広江地区 191人 連島地区 257人 計 448人	昨年度と比較して利用者が 100 人近く増えている。昨年に追加された広江線のエリアでも需要があったものと考えられる。	
		2025			
		2030		目標値 360 人/年	
7	海辺、水辺を 住民の手に	海ごみに ついて学 んでいる 人の数	2015	500 人	この年は、100人以上が参加するプログラムへの講師派遣が2件あり、海ごみへの関心が高まりを見せていた。
			2020	約 150 人	海ごみ問題への関心の高まりから、本テーマに関する講師派遣依頼が8件あった。ただ、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、多くの人が集まるイベントは実施できなかった。2021年3月からは、倉敷古城池高校の生徒による児島通生海岸での海ごみ・生きもの調査が始まった。コンソーシアムとして支援するとともに、得られた知見を基に海の体験学習のプログラムづくりを目指す。
			2021	約 880 人	瀬戸内オーシャンズ X（日本財団と岡山、香川、広島、愛媛県）が2020年12月にスタートしたこともあり、調査・清掃イベントが増加し、学ぶ（関わる）人の数が増えた。出前講座への講師派遣も再開された。水島の海ごみ問題に関する調査研究を端緒とした海ごみに関する講座・調査活動に以下の人たちが関わった。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 海ごみ調査：約 130 人 2. 海ごみフォーラム：約 170 人 3. 海ごみに関する講座、出前授業：約 580 人
			2025		
		2030		720 人/年	

作成者：公益財団法人水島地域環境再生財団（みずしま財団）、NPO地域づくり工房
 助成元：2020年度独立行政法人環境再生保全機構「地球環境基金」
 発行日：2020年10月25日
 連絡先：みずしま財団 岡山県倉敷市水島西栄町13-23（〒712-8034）
 Tel：086-440-0121 Fax：086-446-4620 E-Mail：webmaster@mizushima-f.or.jp